

## 第1回機関評価・中期計画検討委員会等における主なご意見について

令和2年9月  
科学技術・学術政策研究所

## 1. 科学技術・学術政策研究所を取り巻く状況について

- EBPM に関して、データを活用する際は、データの取得状況も考慮する必要があること、エビデンスから自動的に政策が生まれるわけではないことから、Evidence-Informed Policy Making というべきではないかという議論もあることに留意すること

## 2. 科学技術・学術政策研究所の果たすべき役割

- 日本にとって必要な分野にスポットライトを当て、当事者の意識改革も含めた分野振興につながるような活動を期待
- 独自の政策提言までつなげていただきたい
- 実際に政策にどう反映されたかという視点も重要
- 社会にどういう効果をもたらすか等目的をもって研究を進めてほしい

## 3. 調査研究の目指すべき方向性について

## (1) 重点的に取り組むべき調査研究

＜科学技術・学術に関する科学計量学的な調査研究と定性・定量データ資産の構築＞

- 日本全体を俯瞰した分析や定点観測的な調査分析は研究現場にとっても重要
- NISTEP の一番重要な機能は、継続的にデータを取得すること。時間軸に即して継続的にデータの蓄積を強化するという点は非常に大切
- 大学ベンチマーキングでの日英独の比較が興味深い。英独がどう研究力を維持しているのか定性的な分析をしてほしい
- 研究力をいかに向上させるかについての調査研究を進めてはどうか(競争的資金が当たらない研究者への支援策や大学院生に対する支援策の効果のモニタリング等)
- 研究者が自由に研究できる環境をどう構築するかなど働き方のあるべき方向性について議論するためのエビデンスを出してほしい
- 人文社会科学を評価する仕組みの検討が必要(定性的な指標の使い方も重要)

### <社会変容を踏まえた将来展望に関する調査研究(Foresight)>

- 過去にさかのぼってこれまでの未来予測を分析するなど、未来予測の妥当性の分析が必要なのではないか
- DXによってどんな社会になるのか、そのビジョンにどう対応するのかを考えるべきではないか
- 最先端分野の探索・フォーキャストについては、定性分析も必要である
- 人文社会科学系の観点として、社会ビジョンの要素を入れることは大切。社会像に対する兆しや示唆を如何に見つけていくか、アカデミックな研究ベースの議論も必要
- 兆しの把握は主観的要素が入る可能性があり注意が必要である

### <AI 技術等を活用した新しい分析手法>

- 最新の AI 技術等を積極的に取り入れ、潜在情報を抽出するなど分析手法そのものの進化を検討いただきたい
- AI 技術を活用するなどして、調査研究を部分的に自動化できないか工夫するとよい
- 科学技術イノベーション政策の成果をモニタリングできるように指標の確立をお願いしたい
- アプトプットを測る指標は論文が中心となっているが、最終の指標は国がどれだけ強くなったかではないか
- 論文以外の視点も重要。例えばファンディングについて、未来をみて投資がされているかという視点が重要
- 社会にどんなインパクトを与えたのかなどのデータをどう入れていくか、定性的なデータと定量的なデータをどう組み合わせていくかという論点がある
- オープンサイエンス、Transdisciplinary research(超学際研究)等を視野に入れることが重要
- 世界でも DFFT(データフリーフローウィズトラスト)として信頼性があるデータ流通の重要性は指摘されている
- オープンサイエンスについて、シチズンサイエンスの側面もあり、米英が力を入れている
- コロナ禍において論文やデータのオープン化がどう進んだのか調査すべき
- 日本のデータが論文出版に伴って海外の出版社に握られることの危惧が指摘されている。実態を明らかにしてほしい
- NISTEP が根拠とするデータ/エビデンスの確度を評価・考慮すべき
- オープンサイエンスについて、質を如何に担保するのかという課題がある。こういった側面についてぜひ調査してほしい

- 変化が顕在化する前の予兆検出が重要。研究者の Web 上の行動様式の分析（検索ワードの解析、文献ダウンロード状況の分析、SNS の分析など）も行うべき

#### <科学技術イノベーション政策の企画・立案に資する調査研究>

- イノベーション政策はどうあるべきかを調査研究してはどうか(日本版 SBIR の効果等)
- 研究開発と経済発展を結びつけるような指標を開発できないか

#### <ポストコロナ時代における科学技術システムに関する調査研究>

- 化学系の企業で、博士人材は企業で新しいことを始める際に有用な働きをするといいデータが出つつある。NISTEP でも客観的なデータを収集してほしい
- 博士人材の多様なキャリアパスをどう見せるかが重要
- コロナ関係の分析について、若手研究者・女性研究者など研究者に着目した分析も必要ではないか
- 人文社会科学分野での大学院での研究者育成の課題を探してほしい
- 研究成果が企業でどのように社会実装につながっているかという観点は重要。テストベッドとして、どこか地域を見える化することも重要
- 学生の起業と共同研究の関係、大学発ベンチャーと博士との関係等について調査研究してほしい
- コロナによりデジタル化や地方分散化等が進みつつある点も視野に入れて調査を進めてほしい
- コロナ関係の分析について、若手研究者・女性研究者など研究者に着目した分析も必要ではないか

#### <その他>

- どの調査研究を重視するか優先順位付けを行ってはどうか
- NISTEP に対する期待の上昇は、取り組むべき課題の拡大につながる。取り組む調査研究の一つ一つが薄くならないよう、取捨選択が必要ではないか

## 2. 横断的に取り組むべき事項

#### <政策当局、研究現場、地域、海外機関とのインターフェース機能の強化>

- 政策課題への積極的な貢献に引き続き期待
- 実際に政策にどう反映されたかという視点も重要
- JST、NEDO、NICT 等のそれぞれが強みを生かして調査分析を行い、日本とし

て分厚いシンクタンク機能を構築すべき

- 他機関との関係について、分担が必要ではないか
- 国際比較は重要。主要国のみならず発展途上国の分析も重要。日本の独自性を示した科学技術分野での国際貢献策立案につながることを期待
- アフリカ等の新興国との連携協力も重要

#### <EBPMを支えるプラットフォームの形成>

- 政策研究のハブとして、様々な研究機関とのコラボレーションを進めてほしい
- 他機関との連携やインターンシップは重要
- 政策研究のハブとして、公的データの一元的利用に向けた活動を進めてほしい

### 5. 運営の在り方

#### <人材の確保・育成>

- 産業界との人事交流は重要
- 他機関との連携やインターンシップは重要

#### <情報発信>

- 国際的なプレゼンスを強化するためにも、研究成果を学術論文としてもっと発表すべき。インターンシップも論文までつながるとよい
- 対外的な広報が必要。一般の方にもわかるよう表現方法を工夫すべき
- 産業界に向けた情報発信、海外に向けた情報発信が重要

#### <業務運営の効率化等>

- 次の5年間で何を達成するか KPIをはっきりさせてはどうか

### 6. その他

- 自己評価の実績部分で、どのような調査研究を行ったのかももう少し言及してほしい